

EXERCISE 160

〔各種専門委員会コーナー〕

骨粗鬆症の治療(薬物療法)に関するガイドライン

Q 802 骨粗鬆症の定義で正しいものはどれか。

- a) 年齢による変化を伴うもの
- b) 骨量が減少したもの
- c) 骨微細構造の劣化により骨強度が低下したもの
- d) 骨折を必ず伴うもの
- e) 脊椎骨, 橈骨下端, 大腿骨頸部など局所的疾患である

Q 803 骨粗鬆症の診断で正しいものはどれか。

- a) 原則として腰椎正面の骨量測定を行う
- b) 腰椎 X 線写真による骨萎縮度判定を行う
- c) 胸腰椎 X 線写真による骨折判定を行う
- d) 超音波での骨量判定でも確定診断が可能である
- e) 骨代謝マーカーでの異常値の把握が必要である

Q 804 薬物療法を考慮すべき例として正しいのはどれか。

- a) 閉経後10年以内の女性
- b) 脊椎圧迫骨折や橈骨下端の骨折歴を有するもの
- c) ライフスタイルを注意していても年間3%以上の骨量減少者
- d) 骨吸収マーカー低値例
- e) 踵骨超音波指標の低値例

Q 805 薬物療法施行にあたって正しいものはどれか。

- a) 子宮摘出者にはエストロゲン単剤投与でよく, プロゲステンの併用を必要としない
- b) ビタミン D₃製剤の使用にあたっては高カルシウム血症や尿症に注意する
- c) イブリフラボン製剤使用時はエストロゲンが上昇することがある
- d) エチドロネートの服用は必ず食後に行う
- e) ワーファリン使用者のビタミン K₂の服用は禁忌である

Q 806 ホルモン補充療法施行時の注意点として正しいものはどれか。

- a) 子宮体癌, 乳癌などの担癌者でないことを癌検査にて確認してから行う
- b) 一度癌検査を施行していれば, その後の癌検査は必要ない
- c) 閉経後長期経過した高齢者では投与しても骨量の増加がないので, あまり効果は期待できない
- d) 施行中に肝機能・凝固系の検査が必要である
- e) 服薬コンプライアンスを低下させる主な副作用としては性器出血と乳房症状がある